

株主・投資家の皆様へ

シスメックス株式会社
代表取締役会長兼社長 家次 恒

取締役選任議案についての考え方

当社は、2016年6月24日開催予定の第49回定時株主総会において、監査等委員会設置会社への移行、取締役の選任等に関する議案を上程いたします。

取締役選任にあたっての考え方につき、下記のとおり説明いたしますので、何卒ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

記

1. 基本的な考え方

当社は、第49回定時株主総会における定款変更決議をもって監査等委員会設置会社へ移行する予定です。当社は、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題のひとつとして位置づけており、経営の健全性・透明性を高め、経営スピード・経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値最大化を目指しており、幸いにもステークホルダーの皆様のご理解ご支持を得て、これまで順調に業績の向上を図ってまいりました。

当社としましては、これまでの当社経営の基盤となるその方針を維持しつつ、監査監督機能を強化するとともに、経営の透明性・客観性を向上させ、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の充実を目指し、監査等委員会設置会社に移行いたします。

このたび、監査等委員会設置会社への移行にあたり、現任の取締役9名全てを候補者とすることに加え、新任取締役として4名を選任いたしたく存じます。これにより社外取締役を合計4名とする体制をもって取締役会のより一層の強化および監査監督機能の向上を図ってまいります。

2. 取締役候補者

現任9名 家次恒、林正好、中島幸男、田村幸嗣、尾辺和也、渡辺充、浅野薫、
立花健治、西浦進（社外取締役）

新任4名 釜尾幸俊（監査等委員）、高橋政代（社外取締役）、大西功一（社外取締役・
監査等委員）、梶浦和人（社外取締役・監査等委員）

3. 新任取締役候補者について

釜尾幸俊(取締役・監査等委員)

釜尾氏は、1978年に当社入社以来、主として経営管理・経営企画部門での職歴を基礎とし、2013年からは執行役員としての任にあたり、当社業績の安定的拡大に尽力いただきました。当社事業に関する幅広い知識と豊富な実務経験を活かし、当社経営基盤の強化および監査等委員会の適切な運営等に貢献いただくことを期待しております。

高橋政代(社外取締役)

高橋氏は、眼科を専門とする臨床医・研究者として米国での研究活動を含む豊かな経験を有し、現在、国立研究開発法人理化学研究所の網膜再生医療研究開発プロジェクトリーダーとして先進医療研究の先駆者として活躍されているのみならず、社会的弱者の立場に立ち視覚障害者の就労支援活動にも精力的に取り組んでおられ、医学的専門性のみならず、ライフサイエンスや先進医療、医療倫理等に関する豊富な知見および見識を有しておられます。当社が既存事業において臨床的価値の向上につながる新製品の研究開発活動を進め、また個別化医療等の新規事業や将来の成長に資する細胞・遺伝子解析技術の深耕等、広くライフサイエンス分野における新たな事業活動を展開していくにあたり、その豊富な知見および見識をもって貢献いただくことを期待しております。

当社役員との個人的なつながり等はなく、株主・投資者の判断に影響を及ぼすようなことや、一般株主と利益相反を生じるおそれもありません。

大西功一(社外取締役・監査等委員)

大西氏は、2014年より当社の社外監査役として就任し、経営者としての豊富な経験と幅広い知識を監査役の立場から当社の経営に活かしていただきました。

大西氏には、その豊富な経験と高い識見を活かし、今後は経営の健全性・透明性の確保等のために社外取締役として重要な職責を担っていただけるものと考えております。

なお、大西氏は、株式会社神戸製鋼所の出身であり、2010年に同社役員を退任されております。当社と株式会社神戸製鋼所との間には継続的な取引はありません。過去に1回、不動産取引がありましたが（生産能力増強のため、機器生産工場の用地として当社が2012年に土地を取得）、大西氏はこの取引に関与しておらず、取引の性質や規模（連結売上高および連結総資産の0.5%未満）に照らして、株主・投資者の判断に影響を及ぼすようなことや、一般株主と利益相反を生じるおそれもありません。

梶浦和人(社外取締役・監査等委員)

梶浦氏は、当社取引先である有限責任監査法人トーマツの出身であり、公認会計士として会計・監査等の分野で高い専門性を有し、また海外での勤務やグローバル企業に対する指導、助言ならびに監査等の幅広い経験を通じて海外事情やグローバル経営に明るく、新規事業への取り組みやグローバル化を推進する当社の経営環境も十分に理解いただいております。

当社は、現在においても海外での事業活動の比重が高く、今後もグローバル化の推進に伴い海外事業の比重が高まることが見込まれるうえ、2016年度より国際財務報告基準IFRSの本格適用を実施いたします。このような中、グローバル経営におけるリスクマネジメントは一層重要となりますが、グローバル企業の事業活動や監査、リスクマネジメントに精通され、当社の海外事業も理解されている梶浦氏は、当社の社外取締役としてまさに適任であり、取締役会の健全性・透明性の確保や監査監督機能の充実等にも貢献いただけるものと期待しております。

梶浦氏は、監査法人トーマツを退職ののち3年以上を経過しており、当社役員との個人的なつながり等はなく、株主・投資者の判断に影響を及ぼすようなことや、一般株主と利益相反を生じるおそれもありません。

なお、近時においては取引先法人出身者の社外取締役に関する議案に関して、これを消極的に考える動向もございますが¹、当社としましては、梶浦氏が社外取締役として、上記のとおり、その専門性と見識をもって当社のようなグローバルに活動規模を拓げる企業の取締役会において助言・提案等をいただくことが、当社株主の皆様にとって極めて有益であると確信しております。

以上のとおり、社外取締役としましては、現任の西浦進氏を加え合計4名とし、これら4名全員について独立役員候補者として東京証券取引所へ届け出る予定です。

当社は、監査等委員会設置会社への移行、社外取締役の増員等をコーポレート・ガバナンスの充実・強化に活かし、ステークホルダーの皆様のご理解ご支持をいただくため、シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」²に基づき、今後も経営の健全性・透明性の確保ならびに経営スピード・経営効率の向上を目指してまいります。

以 上

¹ 議決権行使助言会社ISS社(Institutional Shareholder Services)は、取引監査法人出身者の社外取締役選任に関する議案について、クーリングオフ期間を設けず、原則反対推奨とする基準を有しているようです。ただし、同じく議決権行使助言会社であるグラス・ルイス社(Glass Lewis)の基準では、3年のクーリングオフ期間を経過していれば問題とはしない立場をとっております。

² Sysmex Way 行動基準:株主様に対して経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様へ安心をお届けします。堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。